

(参考抄訳)

**AIG は、インターナショナル・リース・
ファイナンス・コーポレーションをエアキャップ・
ホールディングス・エヌヴィーに売却する合意を発表
対価は総額 54 億米ドル**

ニューヨーク、2013 年 12 月 16 日—アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄：AIG）（「AIG」）は、本日、AIG が、非中核事業であるインターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（「ILFC」）における 100 パーセントの持分を、エアキャップ・ホールディングス・エヌヴィー（ニューヨーク証券取引所銘柄：AER）（「エアキャップ」）に売却する旨の合意を締結したことを発表しました。本取引の対価は、現金 30 億米ドルおよびエアキャップの新規発行普通株式 97,560,976 株から構成され、その総額は、2013 年 12 月 13 日のエアキャップの 1 株当たりの終値 24.93 米ドルベースで、約 54 億米ドルの価値を有します。本取引は、2014 年第 2 四半期に完了する予定であり、AIG の非中核事業の最後の主要な売却となります。AIG は、エアキャップとの合意の締結に先立ち、ジャンボ・アクイジション・リミテッドとの間の ILFC の普通株式の最大 90 パーセントを売却する株式譲渡契約を解除しました。

AIG の社長兼 CEO であるロバート・H・ベンモシェは、以下のように述べました。「本取引は、ILFC の力強い基盤を築き、継続的な市場の主導力および戦略的成長を確立します。ILFC は価値のある企業であり、AIG は、常に、ILFC の改革に対する評判、航空機リースにおける先駆者的な役割、業界を主導する従業員チームおよび着実に成功を収めた市場の主導力に大いに誇りを持ってきました。エアキャップの需要のある新しい航空機と、ILFC の魅力的なオーダーブックおよび幅広いマーケティング領域をもつ実績のあるポートフォリオ管理能力の組み合わせることにより、業界を主導し続けることとなるでしょう。しかしながら、当初から述べてきたように、航空機リース事業は当社の保険事業の中核を担うものではありません。本取引完了時において、本取引は、AIG の流動性および信用情報にプラスの影響を及ぼし、我々が当社の中核的な保険事業に焦点を当て続けることを可能とするでしょう。」

本取引は、必要とされる規制当局の承認（米国および米国外において適用のある一切の規制当局の審査および承認を含む。）およびエアキャップの株主の承認を受け、その他の慣習的な取引完了条件を満たすことが前提となります。現在 26

パーセントの持分を有するエアキャップの最大の株主である、ワハ・キャピタルは、本取引に賛成表を投じることに合意しています。本取引完了時の AIG における正味現金収益は、インターカンパニー・ローンの決済後において約 24 億米ドルになると予測しており、一般的な事業目的に使用することができます。AIG は、本取引完了前においては、引き続き、ILFC を「売却目的保有」資産として表示する予定ですが、現時点で、本取引完了時に AIG により取得されるエアキャップの持分に鑑みて、ILFC の業績を継続事業に含める予定です。本取引完了後には、AIG は、エアキャップに対する投資による収益を、エクイティ方式の会計処理に基づき評価する予定です。

本取引完了後においてエアキャップの普通株式の約 46 パーセントを所有することに関連して、AIG は、エアキャップとの間で株主間契約および登録届出権に関する契約を締結することに合意しました。これらの契約は、とりわけ、ロックアップ期間後の慣習的な登録届出権およびエアキャップの取締役会につき 2 名のメンバーを指名する権利を規定するものです。また、AIG は、ILFC の売却の完了時に利用できるよう、10 億米ドルの無担保 5 年リボルビング・クレジット・ファシリティを提供することについても合意しました。

エアキャップの CEO であるエンガス・ケリー氏は、以下のように述べました。

「エアキャップによる ILFC の取得は、航空機リース業界における有数の世界的フランチャイズを築くことになるでしょう。本取引は、両企業の優秀且つ経験豊富な人材、および非常に多様な顧客ベースを有する最新のリース航空機の 2 つの魅力的なポートフォリオを結集する、他に類を見ない戦略的チャンスです。さらに、当社は、エアキャップが、現在、業界内で最も魅力的なオーダーブックを有していると考えています。当社は、これらの資源の組み合わせと、力強い流動性プロファイルにより、全ての利害関係者の利益のために、非常に安定した長期収益性およびキャッシュフローをもたらすでしょう。」

ILFC の CEO であるアンリ・クープロン氏は、以下のように述べました。

「私は、過去 4 年間において、ILFC チームによって実証された懸命な努力およびリーダーシップに誇りを持っています。クラス最高のオーダーブックおよび安定したバランスシートを有し、投資格付を付与される会社にまで組織を成長させるのは、エアキャップとの連携を約束するに至るまでの大変な道のりでした。世界でナンバーワンのリース会社になることは、これら全ての努力に対する当然の報酬です。」

ベンモシェ氏は、以下のように結論づけました。

「私は、エアキャップが ILFC における強力なパートナーを得て、その豊富な業界知識および世界的な足跡の恩恵を受けると確信しています。また、ILFC の従業員の多大な努力および献身、ならびに ILFC の創設者であるレスリー・ゴンダ氏の継続的なサポートに感謝したいと思います。彼らのリーダーシップおよび献身は、AIG の重大な資産であり、これにより本取引が可能になったのです。」

エアキャップは、世界の主要な航空機リース会社の 1 つであり、業界内における最も新しい航空機の 1 つを有しています。エアキャップは、オランダに本社を置き、アイルランド、米国、中国、シンガポールおよびアラブ首長国連邦に支店を有しています。

インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーションは、民間航空機のリースおよび再販売の世界的な市場のリーダーです。ILFC は、約 1,000 機の自社保有のまたは管理を行っている航空機、および約 330 機の高需要で燃料効率の良い新たな航空機を購入するコミットメントを有する、世界最大の独立した航空機リース会社です。ILFC は、80 の国々に約 200 の顧客を有する有数の独立した航空機リース会社であり、子会社であるエアロタービンを通して一部販売およびエンジンのリースサービスを提供しています。ILFC は、ロサンゼルス、アムステルダム、北京、ダブリン、マイアミ、シアトルおよびシンガポールの営業所において事業を行っています。ILFC は、アメリカン・インターナショナル・グループ・インク (AIG) の完全子会社です。 www.ilfc.com | Twitter :@ILFCGlobal

本プレスリリースには、1995 年私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) の意義の範囲内で「将来の見通しに関する記述 (“forward-looking statements”)」が含まれています。特に、ILFC の売却が完了すること、または完了した場合におけるその条件については、いかなる保証も与えられません。これらの将来の見通しに関する記述は過去の事実ではなく、将来の事象に関する AIG の見解のみを表しています。その多くは性質上、本質的に不確実なものであり AIG に制御可能な範疇を超えています。連邦証券法により要求される重要な情報を開示する AIG の継続的な義務を除き、AIG は、たとえ新たな情報、将来の事象またはその他の事由が生じても、書面または口頭を問わず、その見解、目標、予測およびその他の記述を更新または変更する義務を負わず、また、そのような義務を明確に否認します。実際の結果がかかる将来の見通しと (場合によっては大きく) 異なる要因は、米国証券取引委員会に対する AIG の提出書類に記載される要因を含んでいます。

#

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国で顧客にサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供しています。このほか、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開しています。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場しています。

AIG, Inc. の追加情報については www.aig.com |

You Tube : www.youtube.com/aig | Twitter : @AIGInsurance |

LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> | を参照ください。

AIG とは、AIG, Inc. 傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名です。より詳細な情報については当社のホームページ (www.aig.com) を参照ください。全ての商品およびサービスは AIG, Inc. 傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されています。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠します。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性があります。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われません。